

カナダ Pearson College UWC ハウカ瑛美里

留学期間：R6.8～R8.7（2学年間）

私は現在、カナダのバンクーバー島にある Pearson College UWC に留学しています。約 80 カ国から集まる 210 人の仲間と共に、海と森に囲まれた自然豊かな環境で日々を過ごしています。また、カレッジはスチアヌウ・ビーチャーベイ（Sc'ianew Beecher Bay）先住民族の伝統的な土地に位置しており、授業や集会では「ここにいることは私たちの権利ではなく、特権である」といった先住民族への敬意を表す言葉が述べられます。こうしてこの土地で生活し、教育を受けられることが決して当たり前ではないと日々実感しています。

昨年の 8 月にカナダの新たな生活に期待や不安を抱きながら渡航し、初めて学校に到着した日を今でも鮮明に覚えています。大きなスーツケースを持ちながら寮へ向かい、そこで、今では「第二の家族」と呼べる仲間たちに出会いました。その後バディーにキャンパスのツアーをしてもらい、初めて「留学」という未知の世界が本格的に始まる実感を得ました。そして、この 4 ヶ月で想像以上に、人として、学生として、成長していると感じています。特に、異文化の中で新しい友達と出会い、言語や価値観の違いを乗り越えてコミュニケーションをとることで、自信を深める事ができました。

しかし、留学初期には 2 つの壁に直面しました。1 つ目は、周りの人や学校に馴染みたいという気持ちが強く、つい周りに合わせて意見を述べたり行動したりしてしまう自分に気づきました。今でも時々流されてしまうことはありますが、徐々に気づいたのは、ここではひとつの意見や価値観だけが正しいわけではないということです。みんなそれぞれ異なるバックグラウンドを持っており、違いを尊重し合うことが大切だと感じました。

2 つ目の壁は、日本代表として私は相応しいのかという疑問でした。カナダと日本の二重国籍を持ち、小さい頃から「外人」や「ハーフ」と呼ばれることが多く、自分のアイデンティティをどう捉えるべきか迷うことがありました。しかし、Pearson College に来てから、“wasian”ファミリーや“mixed baby”と呼ばれる異なる人種を持つ学生グループに暖かく迎えられ、自分のバックグラウンドを誇りに思うことができました。自分がどの枠に収まらなくても、それがむしろ強みであることを学びました。この経験を活かして、私は生徒会の DEI（多様性、公平性、包括性）委員会に立候補し、選出されました。今後は、キャンパス内で少なからず起こっている差別について話し合える場を設け、個人的な経験を匿名でシェアできるシステムを作りたいと考えています。こうして、他の学生たちと共により良い環境づくりに貢献できることを楽しみにしています。

UWC では、国際バカロレアのディプロマプログラム（IBDP）のカリキュラムに基づいた授業や活動が行われます。私は 6 科目の中で日本の高校では学べない“グローバルポリティクス（国際政治）”を選択しました。この授業は主にディスカッション形式で進められ、最近では同じ記事を事前に読み、お互いの意見を積み重ねて話し合う形で進行しています。国際的な課題をテーマにしたプレゼンテーションでは、アフガニスタン出身のクラスメイトがタリバンについて発表し、涙を流しながらその現状を共有してくれました。この瞬間、国際的な課題が身近なものであることに気づかされました。初めは新しい授業スタイルに戸惑い、自分の意見を発言することに躊躇しましたが、徐々にタイミングや考え方を学び、今では自信を持って発言できるようになりました。

また、週に 2 回行われる課外活動では、マリンスポーツやボランティア活動に参加しています。私は VIRC（ビクトリア市難民移民センター）で 6 歳-12 歳の子どものための家庭教師を務め、宿題の手伝いや英語のサポートを行っています。この活動は今年から始まり、子どもたちと触れ合う中で多くを学んでいます。また、カヤックの活動にも取り組んでおり、カヤックの指導資格を取得することを目指して技術向上に励んでいます。

この 4 カ月間で多くの貴重な出会いに恵まれ、家族のように何でも言い合える友情を築くことができました。このような経験を可能にくださった奨学金支援者の方々をはじめ、学校の先生方、県の関係者、そして家族に心から感謝しています。これからの 1 年半も全力で努力を重ねていきたいと思ひます。



物理の授業（ジャガイモを海に放射）



歴史の授業



カヤック（CAS）



ビクトリア市の難民・移民センターで6歳～12歳の子供たちの宿題のお手伝いの様子（CAS）



集合写真



APACの集合写真（アジア太平洋の地域）



バンフィールドという場所にて同学年全員で1週間キャンプして過ごした時の夜



ハウスオリピック（寮ごとで戦う体育祭）



ホストファミリーの家でサンクスギビングのディナーを食べた時



オレンジシャツデー（9月30日）
カナダの先住民児童が寄宿学校で受けた虐待の歴史を認識し、和解を促進する日の様子



日本人ファミリーとお食事



パタフライプロジェクト（優しい言葉を書いた紙をショッピングセンターや駐車場にいる人に配って、あたたかい気持ちを届ける）